

令和3年度までの5年間でのべ28万3058人、毎年平均で約5万6612人が利用、一番多い年度は平成29年度の83858人でその後減少。利用団体数はのべ8287団体、年平均1657団体が利用、平成29年度の2747団体を最高に少しずつ減少していきました。

新型コロナウイルス禍の公民館

令和2年初めに流行した新型コロナウイルス。それを要因とする「まん延防止等重点措置」「緊急事態宣言」により公民館を閉鎖することもあり公民館活動が中止及び延期を余儀なくされ、公民館活動は大きな影響を受けました。

サークル祭り、フェスティバル中止

毎年続けて開催された「生涯学習フェスティバル」は令和2・3年度中止、「サークル祭り」は、令和2・3・4年度の3年間中止。サークルにとって発表の場を失い大きな痛手となりました。

公民館事業は縮小及び中止

公民館事業については、令和2年度は一般講座14企画の中4、親子講座・子ども講座10企画の中6、サークルとの共催講座は3企画すべてが中止、移動公民館講座は9実施で半分に減少、学校への出前講座は1回だけの開催でした。

令和3年度は、一般講座11企画の中7が中止及び回数減、親子講座・子ども講座は8企画の中6が中止、サークルとの共催講座3企画すべてが中止、移動公民館講座2開催で大幅減少、出前講座はゼロとなりました。しかし親子講座・子ども講座のうち3つは、動画撮影してYouTube配信を行いこの面での新たな地平を開きました。今後この面で更に充実させることが課題となります。

利用者、団体数大幅減少

コロナ禍での公民館利用者数は、令和2年度は2万637人、令和3年度は5万2125人（コロナ接種会場となりその利用者も含む）になりました。

通常の利用者の約4分の1～3分の1に減少しました。利用団体も令和2年度は1482団体（通常の半分強）、令和3年度は494団体（通常の約20%）で大幅に減少しました。

令和4年度の公民館活動の様子

令和4年2月1日から7月31日まで、中央公民館が市のワクチン接種会場となり、中ホール、談話ホール、第二研修室が利用停止になりました。解除したのは同年8月1日。その後通常通り使えるようになり再び活気を取り戻しました。

感染対策を行い計画通り推進

令和4年度はコロナ感染者数が過去最大の5,6千人を超える日がありましたが、感染対策を行いサークルや公民館事業を計画通り推進しました。

令和4年度の定期利用団体（42）がサークル活動を開始し、書面総会、対面による代表者会議を開き計画的組織的に活動しました。但し、活動の縮小、一時休止のサークルが約4分の1あります。

現在講座関係では、一般講座30余企画、親子教室7企画、サークル共催講座2回実施、移動公民館講座5回を計画推進しています。なお移動公民館講座の一カ所がコロナの急拡大で中止となりました。出前講座は全小学校を訪問して呼びかけ、実施の運びとなっています。学振課事業の豊寿大学は過年度はコロナ禍で中止されていましたが、第14期豊寿大学は令和4年度4月1日に開講しその後計画通り行われています。

令和4年度生涯学習フェスティバルは実行委員会が発足し、令和5年2月18（土）、19日（日）開催を計画しました。

結びに、これまでの資料を基に「中央公民館のあゆみ」を記しました。不十分な点や誤った点がある場合ご指摘ください。又追加の情報がございましたらご提供ください。 2022・9・30 文責：館長

豊見城市立中央公民館のあゆみ



現在の位置にある豊見城村立（現市立）中央公民館は、昭和57年（1982年）8月14日、字平良の地に建設されました。今年はこの公民館が建設されてから創立40周年目にあたります。そこで、中央公民館ができるまでを初めに、その後10年の節目ごとに概略を紹介し、落成パンフ、沿革誌、記念誌での挨拶等を参考にしました。

中央公民館ができるまで （昭49年～昭57年） 村教委の事務所の中で活動

現在の公民館ができる前から中央公民館活動は行われていました。初代中央公民館館長の大小堀松三郎氏は昭和49年12月29日に村公民館長に就任。公民館（担当部署）は村教育委員会の事務所の中にありました。教育委員会が移転した昭和53年には公民館の事務所がプレハブの中に置かれたこともありましたが、公民館の諸行事は学校の教育施設に頼ることが多く活動が十分に機能せず又学校に迷惑をかけることが多々ありました。中央公民館の事業として、青年学級、婦人学級、高齢者学級が開設され、村社会教育研究大会、南部地区公民館連絡協議会等が開かれました。昭和53年に開かれた県指定の高齢者学級活動の研究発表会には315人の村民等が参加しました。

その頃「公民館だより」も作られ毎年10回程度発行。広く村民に公民館活動を知らせました。

公民館建設に向け活動

各字の区長・自治会長は「分館長」に任命され、公民館活動を連携して推進しました。早速、分館長会は昭和51年6月に村教育委員会に「中央公民館の早期建設」を要請。その後の中央公民館建設の経緯をたどると、昭和52年6月教育委員会が村議会に要請、昭和53年10月村議会が議決。

11月に建設委員会が結成され敷地選定交渉、同月村教育長が文部省に公民館建設を申請、昭和54年6月敷地を平良472番地に決定、同月造成工事、昭和56年村議会で工事請負契約が可決されて工事着工。1年2カ月の工事を経て、昭和57年8月14日、中央公民館落成式典・記念行事が行われました。

公民館施設

当時の公民館施設は次の通りです。建設当時と現在で代わった施設も示しました。

一階： 大ホール（786席）、男女別楽屋、兼用トイレ、電気室、空調室、ホール付設男子トイレ・女子トイレ2、ロビー（ホールの出入り口前）、談話ホール、正面玄関空間、事務室（現展示室）、視聴覚室・映写室（現生涯学習振興課事務室）、空調機械室、図書室、作業実習室、和室、調理実習室、保育室、暗室（現倉庫C）、印刷室（現倉庫A）、宿直室、ロッカー室2（現印刷室、多目的室等）、湯沸かし室、エレベーター入口、右側に男女トイレ、左側に名なしの1室（現倉庫B）、その隣に障がい者用トイレ（現多目的トイレ）。



視聴覚・映写室 ⇒ 生涯学習振興課(現)

二階：大ホール2階、左右に控室、男子トイレ・女子トイレ、ホワイエ（大ホール2階の出入り口付近）、吹き抜け、中ホール（400席）、老人会室（現控室）、婦人会室（現窓際控室）、青年会室（現子ども会室）、書庫（現女性会室）、研修室（現第一研修室）、会議室（現第二研修室）、教育委員会事務室（現二階会議室）、2階エレベーター口に男子トイレ・女子トイレ。

三階：大ホールの調光室、採光室・映写室、ミキサー室、エレベーター出入口、ファン室、屋上。

公民館建設から創立10周年まで （昭和57年8月～平成5年3月）

創立して間もなく30数サークルが活動し、団体代表者会議が開かれました。

公民館まつりが始まる

サークルの発表の場として昭和58年8月26日「第1回公民館活動発表会」を開催。テーマを設定し日頃の公民館活動の成果を舞台や展示で発表。公民館活動を村民にも知ってもらい生涯学習への参加を促進し、その後名称を「公民館まつり」として毎年開催しました。

この期間の公民館事業では、年間13～15の公民館講座（一般講座と親子講座）、5～7の移動公民館講座（中央公民館と字自治会の共催）を開催。公民館講座や移動公民館講座を終えるとサークルに発展し、定期利用団体として市立公民館に登録する事例も数多くありました。

公民館利用者は毎年増え続け、平成2年度には14万2608人、10年間で95万4155人の利用者となりました。平成4年度の公民館の団体利用数は2042団体でした。大ホールでは沖縄県芸術祭「邦楽公演」「邦舞公演」が開かれ、大イベントの会場として活用されました。

中央公民館への期待が大きい反面、これに応えるため、利用者の固定化の是正、中央公民館と各字公民館の活性化と連携をい

かに図るか、子どもから高齢者までの利用をいかに図るか等課題がありました。

創立10周年から 創立20周年まで （平5年2月～平15年2月）

生涯学習フェスティバル開始

毎年開かれてきた「公民館まつり」は平成8年度「第13回公民館まつり」で終了。代わりに平成9年に「第1回生涯学習フェスティバル」が開かれ、サークル等の発表の場はそこに移りました。

平成12年11月10日、永年の懸案だった中央公民館利用団体連絡協議会が結成されました。その頃の定期利用団体は59。当時の館長は「公民館事業は、公民館講座26、移動公民館講座10、事業2、毎月1回のファミリーシアター、情報誌の発刊・閲覧、展示室の活用が行われた」と記しています。

この時期の公民館利用者は、10年間で約11万9843人、毎年約1万3千人でした。

サークルや講座で培った技量は学校や地域で還元する人が多くいました。

活動の幅を広げた交流広場、ロビー開放

大ホールへの技術職員の配置、交流広場の開設、IT化、展示室、ロビーの開放、調理室の整備等、学習環境が大幅に整備されてきました。交流広場は雨天時でも集会が開け、健康・運動系講座やサークル活動にも効果を発揮。当時の館長は「ロビー開放は小グループでも利用できるミニ展示会、発表会場となり、アジアの楽器カリンバ演奏や絵画展で喜ばれた」と記しています。



交流広場



ロビー

2ページ

平成14年度から学校週五日制に伴い、児童生徒の学習の場として親子向け講座、自治公民館との連携、係会議の月1定例化等で中央公民館としての充実・発展が図られました。大ホールは県内でも有数の施設で、県芸術祭「写真展」、組踊「手水の縁」、241年ぶりの組踊「未生の縁」の上演、移動県民講座、NHKの番組収録等が行われました。

こうした活動が評価され、平成12年11月23日、中央公民館は、文部省から「優良公民館文部大臣賞」を受賞しました。

創立20周年から創立30周年まで （平成15年3月～平成25年2月）

この時期は、村制から市制へ移行して間もなく、役所内の組織の再編、行政改革が行われ、市立公民館も職員数の減少、休日や夜間の窓口業務、公民館講座等公民館活動が厳しさを増しました。

公民館業務の一部が業者に委託

その頃、大ホールの機械管理や操作、中ホール、会議室や研修室等の管理・清掃、夜間土日の休日、祝日の管理、業務等が業者に委託されました。

定期利用団体は60数団体が登録され、年度初めの総会、活動計画・役員選出、館外清掃、学振課との観月会、グランドゴルフ、交流会、歌碑巡り、社会見学等を実施。発表の場でもある「生涯学習フェスティバル」も毎年開催されました。

この10年間を見ると、公民館事業では、一般公民館講座は8回～18回開催。例えば料理講座は1回の開催で50数人参加、舞踊講座は10回講座で40数人が参加等多種多様に行われました。夏休み子ども教室は3～6回開催され、科学・外国語・ダンス・絵画・ちぎり絵・折り紙・草木染等の内容でした。移動公民館講座は、3～11回実施し、地域課題の学習や住民の要望に応える講座を行いました。

平成21年11月13日、国公立幼稚園研究全国大会が千数百人の参加で中央公民館において開催されました。中央公民館や大ホールが県内でも有数の規模と施設を備えた場所であることが広く知られ、県内外の各種の研究集会、大会が中央公民館で開催されました。

大ホールでは市制施行10周年記念・NHK「民謡を訪ねて」のラジオ公開講座が開かれる等、引き続き文化活動等に活用されました。

平成24年11月13日、豊見城市立中央公民館は文部省から2度目の「優良公民館文部大臣賞」を受賞しました。

創立30周年から創立40周年まで （平成25年2月～令和4年11月）

サークルまつり始まる

平成25年9月22日、中央公民館定期利用団体が日頃の公民館活動の成果を発表する場として「第1回サークル発表会」を大ホール、ロビーで実施しました。これは後に「サークルまつり」と名称を変え、毎年開催。生涯学習フェスティバルとともにサークルの発表の場となり、そこに向けた取り組みがサークル参加者の活動意欲を引き出しサークル活性化の力となりました。

10年間の公民館事業は、一般公民館講座は年に7～13回、夏休み子ども教室は2～3回、特別講座は1～3回。移動公民館講座は年に7回～21回で毎年平均16回実施し、地域課題の学習や住民の要望に応える講座を行いました。小学校と公民館が共催する出前講座は平成26年度に初めて開催。以来、毎年1～5回、平均3回程度開催し、平和、地域、星座観察、ウージ染め等の内容で実施しました。一般市民向けの公民館主催講演会も行なわれました。

3ページ